

ここに

注目



早稲田大学教授

川本 裕子

トヨタ自動車、日産自動車、
日立製作所など、今週は主要
企業の2012年3月期決算
発表が相次ぐ予定だ。東日本
大震災、タイの大洪水、欧州
債務危機など昨年は厳しい経
営環境に直面した主要企業。

どこまで立ち直ってきたのか
を見極めたい。回復の持続力
を占う意味で、今期の決算予
想にも注目している。

今年に入り、企業の活動は
活発になってきた。設備投資
は回復し、機械受注など足元
の経済指標を見てもプラスの
材料が増えている。消費支出
が増勢に転じるなど家計にも
プラスの効果が波及してい
る。内需型企業の経営者から
は「業況が回復している」と
の声を聞くようになった。

▶ 主要企業の決算発表（7日～）

回復の持続力占う好機

個々の企業がどの分野や地
域に重点を置き、収益にどん
な影響が出ているのか。決算
発表から浮かび上がる企業戦
略を新たな目で分析してみた
らどうだろうか。



川本
裕子

の経済指標を見てもプラスの
材料が増えている。消費支出
が増勢に転じるなど家計にも
プラスの効果が波及してい
る。内需型企業の経営者から
は「業況が回復している」と
の声を聞くようになった。

ただ、主要企業の現状は千
差万別である。とりわけ製造
業のばらつきが大きいので注
意が必要だ。製造業はこれまで
の回復局面で輸出を増やし
てきたが、今回は新興国市場
などで激化する競争や先進国
の低迷により、苦境からの脱
出には苦労する企業が多くな
りそうだ。成功体験に固執す
ることなく、生産拠点のグロ
ーバルな展開を大胆に進める
ことができる企業ほど、立ち
直りは早いはずだ。